

医療政策課感染症・がん対策班

担当：竹野

電話：直通095-895-2466

三類感染症（腸管出血性大腸菌感染症O26）の集団感染の発生について

吉岐保健所管内で発生した三類感染症の腸管出血性大腸菌O26感染患者（平成28年8月12日報道発表(FAX)）の接触者調査を実施した結果、8月15日までに新たに15人から腸管出血性大腸菌O26が検出されました。

現在、吉岐保健所が健康調査及び感染経路等の調査を引き続き行っています。

腸管出血性大腸菌は、汚染された食品や不適切な汚物処理などで感染しますので、感染予防を心がけてください。

なお、今回の情報提供は、広く腸管出血性大腸菌感染症に対する啓発と注意喚起を目的に行うものです。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第3条において求められているように、患者の人権尊重にはご配慮いただきますようお願いいたします。

記

- 1 施設等の所在地 吉岐保健所管内（吉岐市）
- 2 施設の種類 保育所
- 3 施設の状況 給食あり。水道水を利用。
- 4 接触者調査 初発患者の家族、園児、保育所職員に対し、健康調査及び検便検査を実施
- 5 調査結果 初発患者の家族・保育所関係者の121人中15人からO26を検出

(人)	対象者数	陽性	陰性	備考
家族	8	5	3	初発を除く
園児	85	10	75	陽性者 1歳:2、2歳:0、3歳:3、4歳:4、5歳:1
職員	28	0	28	
計	121	15	106	

- 6 現在の状況 調査対象者121人のうち15人からO26が検出された。陽性者のうち園児2人は下痢等の症状があり既に受診済み。その他の陽性者は、症状がなく入院者および重症者はいない。
- 7 感染源及び経路 吉岐保健所で調査中
- 8 保健所の対応
 - ① 当該保育所に対し、施設内の消毒徹底、手洗いの励行や適切な汚物処理方法について衛生指導を実施
 - ② 園児保護者に対して、手洗いの励行等の予防について説明
 - ③ 陽性者に対して、医療機関の受診勧奨
 - ④ 陽性者とその家族に対して、接触者調査（健康調査・検便
- 9 保育園の対応
 - ① 保育所内の清掃と消毒実施
 - ② 8月13日（土）～17日（水）保育所を休園

※ 患者・家族のプライバシー保護の観点から、患者に関する情報につきましては資料の範囲内とさせていただくことをご了承ください。

(参考) 近年の県内における腸管出血性大腸菌集団発生(10名以上)の発生状況

暦年	発生件数	発生地	初発患者発生日	菌型	感染者数
平成17年	1件	県南保健所管内	6月4日	O157	16人
平成18年	1件	県央保健所管内	8月16日	O26	26人
平成19年	3件	県央保健所管内	8月6日	O121	13人
		県南保健所管内	8月8日	O103	15人
		県南保健所管内	8月23日	O26	18人
平成20年	2件	県北保健所管内	8月4日	O103	29人
		佐世保市保健所管内	8月24日	O26	23人
平成23年	1件	県央保健所管内	7月11日	O26	29人
平成25年	1件	吉岐保健所管内	7月28日	O26	12人
平成26年	3件	県北保健所管内	8月6日	O103	17人
		県南保健所管内	9月4日	O26	14人
		五島保健所管内	10月25日	O157	33人
平成28年	1件	吉岐保健所管内	8月12日	O26	16人

※今回を含む

腸管出血性大腸菌感染症

(*Enterohemorrhagic Escherichia coli* infection)

(特徴)

大腸菌は、動物や人の腸内にも存在し、そのほとんどは無害です。

しかし、O157をはじめ、そのいくつかは、ベロ毒素という強い毒素を産生し、腹痛や下痢、進行すると出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群、脳症など重症な合併症を引き起こすことがあります。特に抵抗力の弱い高齢者や小児などでは注意が必要です。潜伏期間は2日から7日が多く、長いものでは12日におよぶこともあります。

(感染経路)

飲食物を介する経口感染がほとんどで、菌に汚染された飲食物を摂取するか患者の糞便で汚染されたものを口にするのが原因となります。

このため人から人へと二次感染を起こすことがあり、食中毒としてだけでなく感染症として発症することがあります。

(症状)

主に水様性下痢と腹痛で発症し、数日内には血便がみられることもあり、鮮血を多量頻回に排出する場合も多く、中には嘔吐や38℃台の発熱を伴うことがあり、微量の菌でも感染するため、二次感染が起こりやすいとされています。

(予防)

- 調理や食事の前、トイレやオムツ交換の後などには、手洗いを流水と石けんにより丁寧に洗い、清潔なタオルやペーパータオルで手を拭いて下さい。
- 浴槽は洗浄して清潔を保ち、下痢症状が見られる場合は入浴を控えるか、シャワー浴または最後に入浴しましょう。
- 汚染部分や人の手が触れる部分(ドアノブ等)を消毒用アルコール等で丁寧に消毒しましょう。
- 肉、魚、野菜などの生鮮食品は新鮮なものを購入し、賞味期限を守りましょう。また調理は十分に加熱(食品の中心温度を75℃、1分以上)して、すぐに食べるようにし、保存する場合は冷蔵庫に入れるようにしましょう。

(早期受診)

早期に診断、治療を受けることが重症化や二次感染を防ぐことにつながるため、自己判断で下痢止め薬を服用したりせず、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。